

## バングラデシュ精米産業での参加型労働生活改善プログラム=GRAINS

○仲尾 豊樹<sup>1)</sup>、長須 美和子<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>特定非営利活動法人 東京労働安全衛生センター、<sup>2)</sup>女子栄養大学ハイテク・リサーチセンター特別研究員

【はじめに】バングラデシュアシュゴンジュ地区は、メグナ川の水運を利用し約200の精米工場が集中している。各工場には地方出身者を中心に約30家族が住みつき月に約70トンの精米を行なう。ボイラー爆発、機械駆動部への巻き込まれ、重筋労働による腰痛、女性労働、住宅衛生等解決すべき課題が多い。当センターはその解決ためにバングラデシュ労働安全環境財団（OSHE-BD）と連携し、精米労働の参加型労働生活改善プログラム=GRAINSを開発した。

【方法】OSHE-BDと当センターが実施していた労働組合向けの参加型労働安全衛生改善活動=ポジティブ（POSITIVE）を精米産業に応用して、二日間のパイロット研修会を実施し、それに基づいて精米労働アクションチェックリスト（AC）とトレーニングマニュアル（TM）を500部作成し、それを使用した現地トレーナーによるGRAINS研修会を実施した。研修会では、すぐ出来る改善、低コスト改善、生産性とのリンクを強調した。またベトナムで毎年開催されているメコンデルタ参加型安全衛生トレーニング（MD training）に労使代表を06年と07年二回派遣しトレーナー育成をはかった。

【結果】06年2月パイロット研修会がPOSITIVE方式に基づいて行われ30名が参加、その後07年9月迄毎月3時間GRAINS短時間研修会を55回実施し48工場、533名（男性288、女性245）が参加した。すべての研修会はACを利用した職場巡視とグループ討議を取り入れて行われた。研修会開催時には、OSHE-BDが前回研修会後に実施された改善成果を収集した。8月MD trainingに三人が参加することでコアトレーナー22名（経営者12、労働者10）が育成され、06年12月彼らによるACとTMを用いた一日研修会が開かれ25名が参加した。GRAINSによる改善件数は07年10月末で6技術分野819例であった。（図1）OSHE-BDは自らのWEB上にGRAINSサイトを作成し成果を発信した。

【成果】POSITIVEとMD trainingの参加型改善手法を応用して精米労働トレーニングツール（AC, TM）が作成された。

数次の研修会とMD training参加を契機に、多分野の低コスト改善が実行されると共に、改善活動を推進する現地トレーナーが養成された。OSHE-BDが運営するWEBサイトにGRAINSの活動と成果が紹介された。

【結論】参加型労働生活改善活動はバングラデシュ精米産業の安全衛生活動に有効であり、POSITIVE、MD training等既に確立されている参加型改善研修を共有することで、現地の参加型改善活動は促進されると考えられる。

